

普及活動情勢報告（平成27年9月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

キュウリ産地の新規就農受入の前進に向け、意見交換会を行いました



活発な意見交換中

8月27日、「JA高知春野キュウリ部会における新規就農支援に関する意見交換会」が、指導農業士や新規就農者、研修生等30名の参加で開催されました。新規就農者の受け入れを一層円滑に行えるように、関係機関が整理した受け入れマニュアルやこれまでの受け入れの問題点と今後の活動に向けた意見交換を行いました。

参加者からは、就農相談者の本気度確認のための短期体験の導入や農閑期での農家研修カリキュラムの課題、地域での住宅や就農ハウス確保等の支援方法等、前向きな提案がされました。提案内容を部会や地域で検討し、活動を前進させることを合意しました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、今回の意見を反映させて、JA高知春野のキュウリ産地の担い手確保を進めていきます。

市民講座でショウガ産地をPR～「県政出前講座」～



受講者と説明する普及指導員

広報広聴課が計画した「県政出前講座」を普及所が実施し、7月9日に佐川町健康福祉センター「かわせみ」で同町長寿大学74名、8月28日に高知市南部健康福祉センターで同市老人クラブ連合会95名が受講しました。講座ではショウガに関する産地の概要や栽培方法、普及活動等について説明し、JA高知市の加工品の試食も行いました。参加者の本県特産品のショウガに対する関心は高く、多くの質問とともに講座実施に対する感謝の声もいただきました。

普及所では、今後も一般の方に対しても、産地・農産物紹介や普及活動等の広報を行っていきます。

農村女性リーダーが調査研修に行きました



いろいろな調査研修を行います

高知地区農村女性リーダー協議会は、毎年の活動として調査研修を計画しており、今年度は「村の駅ひだか」「池川茶園」（茶農家の女性で立ち上げた、お茶にこだわったスイーツ工房）の取り組みについて8名で8月27日に調査研修に行きました。

普及所では、視察先の提案、日程調整を支援しました。参加者からは「直販所をリニューアルして客足が伸びたら、高齢の生産者も頑張りが違ってくる」、「お惣菜商品の陳列方法の工夫を取り入れたい」、「商品に魅力があれば山の中までお客さんは来る」などの感想が聞かれました。今後も、普及所は女性リーダーに魅力的な情報提供・研修ができるよう支援していきます。

クレーム対応でC S（顧客満足）を向上させよう！～直販所のクレーム対応研修会～



真剣に聞き入る研修生

鏡村直販店組合では昨年に引き続き、高知県産業振興アドバイザー制度を利用してクレーム対応研修会を9月4日に開催しました。13名の店舗職員と理事を対象に、クレーム対応でいかにC S（顧客満足）を向上させて、細く長い店のファンになってもらうか、実例を交えながら研修しました。また、普及所からは前回の研修以降のクレーム対応等引き書の作成状況を報告し、今後の取り組み方法についてアドバイスを受けました。参加者からは「クレーム対応に限らず、お客さんとのコミュニケーションの大切さがしみじみ分かりました」と大変好評でした。今後も引き続き、普及所は店舗職員と一緒に手引き書作りに取り組んでいきます。

次の高知市の稲はこれだ！～奨励候補品種の食味官能試験～



試食会の様子

普及所では夏期の高温で白未熟粒の発生など品質低下が少ない品種を将来の奨励候補品種として現地試験に取り組んでいます。それらの品種の食味官能試験を、9月16日にJ A高知市稲作部役員会で実施し、役員や高知市農協、全農の職員等15名の参加で、高知県育成の極早生系品種「高育76号」、早生品種「関高IL1号」をコシヒカリと食べ比べました。参加者からは「味の差はほとんど感じなかった」という意見が多く、候補品種の味がコシヒカリのレベルになっていることが確認されました。

普及所では今後、これらが奨励品種になった場合、管理のポイントを指導できるよう、生育データを調査していきます。